

# 学 園 南

# ふ れ あ い

発 行 人  
学 園 南 地 区 社 会 福 祉 協 議 会  
会 長  
森 本 徹 也  
編 集 責 任 者  
膳 隆 史  
電 話 0742-45-0993



地区自治連合会  
会 長  
廣 嶋 嘉 昭

自治会活動に一方ならぬご理解とご協力を頂きありがとうございます。

去年は、大地震、大雪、豪雨、台風と自然災害に見舞われました。今にも「南海トラフ巨大地震」に襲われそうない思っています。皆様と共に、今まで以上に減災への備えを強化していきたいですね。

その中核となるのが、地域の未来を見据えた「地域自治協議会」の役割だと思料しています。私たちの町は、少子高齢化と人々のつながりの希薄化が進行していますが、お互いに「顔と名前が分かる」間柄を作っていくことが、災害時などの難局を乗り越える「地域力の源」だと考えています。

地区に居住の方全員（自治会未加入者を含む）を対象に協働・



参画をお願いし、当地の20団体を「自治部会」、「防災防犯部会」、「福祉部会」の3グループの体制を維持し相互に協働活動を目指します。

この町に余力が有るうちに、この協議会を軌道に乗せ、安心・安全と町の活性化に努めたいと思います。皆様には引き続きご理解とお力添えをお願いいたします。



地区自主防災・防犯協議会  
会 長  
温 井 久 男

平素は自主防災防犯協議会活動にご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

平成30年は多くの災害が発生した年となりました。地震においては島根県西部地震、北海道胆振東部地震、また台風による大雨・強風による被害も多く発生した年となりました。改めて被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

奈良市域においては、過去最大の避難所開設、避難者数となり、特に高齢者の方が心理的避難（一人では心配）をされており、これからの避難所のあり方について考えなければなりません。

地区自主防災・防犯協議会においては、昨年は6月に「防炎会議」、11月に「避難所開設・運営訓練」を開催し、各自自主防災・防犯会の役員及び住民の皆様方に災害発生時には慌てることなく行動できるような理解を深めました。また、2月には防犯意識と防犯知識の高揚を図るため「防犯講習員会」を西部公民館にて開催いたします。多くの方々の参加をお願いいたします。



地区社会福祉協議会  
会 長  
森 本 徹 也

日頃、社会福祉協議会へのご協力を感謝しております。

当会最大の行事である福祉大会は、思い切つて学園前ホールを使用し、各方面からご好評を得ました。

今年も学園前ホールでの開催を予定し、皆様に楽しんでいただけるよう福祉部会で検討を開始しております。

当会では各部会で多岐にわたり活動しておりますのはご承知の通りですが、気楽に遊びに来てください。やってみようかと思われるものがあるのではないのでしょうか。



### 自治会長および少年指導委員の異動

三丁目自治会長・吉井信幸氏、少年指導委員・内藤佳代氏が一身上の都合で退任され、三丁目自治会長として中村喜美子氏、少年指導委員として加藤光彦氏が就任されました。



中村氏



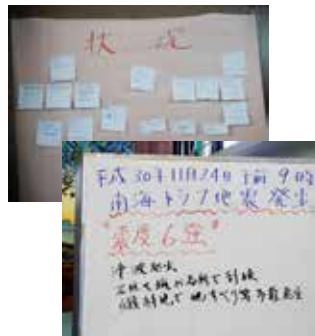
加藤氏



運営委員会の各班に分かれ、避難者情報を確認、班長が実施すべき役割内容を委員に指示・報告します



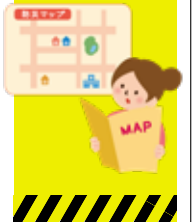
参加者(避難者)の受付



避難所掲示板での状況報告

11月24日(日)あやめ池地区と合同で、一次避難所に指定されているあやめ池小学校にて避難所開設・運営模擬訓練を行いました。今回の目的は、避難所運営委員会・運営模擬訓練を行う内容と、避難所マニュアル様式の運用についての確認です。参加者は当地区から52名、両地区で110名となりました。

平成30年度 防災訓練  
実施状況報告



『赤い羽根共同募金・日本赤十字募金』への  
ご協力ありがとうございました

例年、赤い羽根共同募金・日本赤十字募金と募金運動が行われています。ご存知のように赤い羽根共同募金は、募金の約70%は、募金をした地元で使われ、残りの約30%は市区町村を超えて広域的な課題を解決する為に、都道府県の範囲内で使われています。地元では高齢者福祉・児童・青少年健全育成等に地域福祉活動資金として還元されています。

今年も10月1日、社協役員さんによる募金活動、11月3日学園南・いきいきスクールと子ども会の子ども達で近鉄学園前駅にて元気いっぱい募金への協力を呼びかけ、地域のみなさんのご協力を得て大きな成果をあげています。本当にご苦労様でした。



各自治会・団体の募金額一覧

自治会名・団体名	赤い羽根共同募金		日赤募金
	A募金	B募金	
一丁目	25,250	70,500	54,500
一丁目第2	6,000	2,500	11,050
パークスイーツ	27,500	9,500	17,000
二丁目	31,750	2,500	31,400
二丁目北	7,250	5,000	13,500
二丁目南	8,500	13,500	28,500
南苑	32,250	37,450	48,800
三丁目	23,750	31,000	35,500
三丁目北	18,500	31,800	17,000
三丁目中	18,000	5,000	7,200
三丁目南	12,000	9,000	15,100
街頭募金(社協役員)		19,850	-
街頭募金(いきいきスクール)		48,130	-
民生・児童委員協議会		10,000	-
合計	211,000	295,730	279,550

# 学園南地区自治協議会 町づくりアンケート 集計結果



学園南地区では平成 29 年度から、自治連合会や自主防災・防犯協議会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、子ども会など諸団体を包摂した『自治協議会』の設立を目指しています。

地区自治協議会は、地域の現状や課題に基づいて様々な町づくり活動を行うほか、地域の要望を取りまとめ、行政への提言を行うなどの役割を担います。

自治協議会の設立に先駆け、「学園南地区をこんな町にしたい」「どうやって実現するのか」に皆様の思いや意見を幅広く盛り込むためのアンケートを実施いたしました。ここでは、アンケート結果に基づく全体的な考察と、自治協議会に関して皆様から寄せられたご回答の一部をご紹介します。

- ・実施期間：平成 30 年 9 月 23 日～10 月 20 日
- ・配付地域：学園南地区自治連合会加入 11 自治会（自治会未加入世帯を含む 1,020 世帯に配付）  
※学園中 1 丁目自治会（地区自治連合会に加入していない世帯）も同アンケートを 103 世帯へ配布、20 世帯から回答が寄せられ、集計に加算済み。
- ・配付部数：1,123 部      ・回答部数：373 部
- ・回収率：33.2%

## 近所づきあいや地域活動について

69%の世帯が「自治会活動は機能している」との回答であるが、77%の世帯が近隣とは比較的浅いつながりしか示されていない。

地域行事や活動も一部の人に限られていて、「街育アートフェスタ」の行事参加 43%が最高率となっている。今後、参加したい行事などには、バザーや日帰りバスツアー、こども主体のお祭りの提案がある。

なお、17%の世帯が「災害発生時に避難所へ行かない」と回答され、救護体制の見直しが必要である。

## 暮らしについて

20 年以上学園南に居住されている世帯が 57%を占め、満足して住み続ける世帯が 89%と快適住環境の認知がある反面、児童公園や生活道路の未整備、宅地面積が大きいなど、若い世帯が移住しにくい点などの課題を残している。

## 自治協議会について

54%の世帯で自治協議会の認知が示されており、61%の世帯で自治協議会の設立に肯定的な選択を示している（裏 4 面参照）。

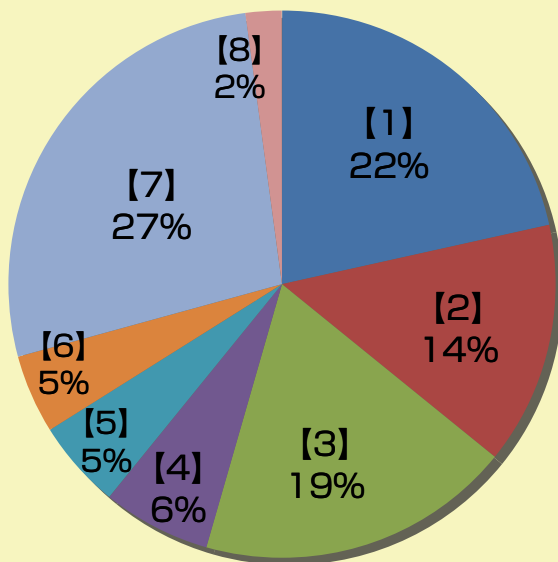
ただ、10%の設立反対世帯と 27%の認知されていない世帯への啓蒙活動は、今後も継続させることが求められる。



**地域活動を充実させていくためには、より多くの人々の協力が必要です。  
あなたは今後、自治協議会の設立にあたりどのような所感をお持ちですか。**

※参考意見を抜粋

- 自治会の下に組が作られている(回覧板を回す)が、組の構成にばらつきがありすぎる。組長、会計などの他に数年ごとに会長を出すのに今まで苦心してきた(高齢であること、人数が少ないことなど)(1丁目第二)
- 高齢化に伴い早く協議会設立をお願いします(1丁目第二)
- 少子高齢化、核家族化の中で組織を運営維持してくださる方の人材の人選、確保等難しさ拝察いたします(2丁目)
- 設立で現状の何が改善するのかの周知が必要(2丁目南苑)
- 活性化は大切だが、高齢化に伴い活動できる人数が少なくなると思う(2丁目南苑)
- 自治組織は近隣の関係が疎遠になり、行政は責任転嫁を図ろうとしている。有効なる策は必要と思うが簡単には思いつきません(2丁目南)
- 道一つ隔てた向かいの他自治体との交流が少ないと思う(2丁目南)
- 災害時には帝塚山学園南門から正門まで学園内を通行させてほしい(3丁目)
- 自治会に協力しなくせに対象とする必要性を全く感じない。そうした人とは一緒に活動できない(3丁目)
- 高齢のため隣組の役員さんにはいろいろとお世話になりましてありがとうございます(3丁目)
- 高齢者の方に自治会長は厳しいけど、子どもが小さかったり小学生の子がいる世帯も自治会長は厳しいと思う。でも同じ人が何回もするのもきついし……。もう少し内容を分担するか考えないと誰もやりたがらないと思います(3丁目北)
- 参加がさまざまな団体、自治会未加入者も対象となることで大きな権限が発生しそうな組織の民主性はいかに担保されるか?いろいろな考え方を持つ住民が集まる単位自治会の自主性の尊重は?ましてや十分機能していない単一自治会へのサポートがなければ自治協議会は機能不全になりかねない。自治会は行政の末端組織ではないが、市もサポート・バット・ノーコントロールである。金だけでなく支援を、人を増やしてでもやるべき(3丁目中)
- 高齢化と若年層の共働きが増え地域活動への協力に無関心すぎる。今、何を組織しても協力が得られないのではと思う(3丁目中)
- 市が積極的に方向を打ち出すべき(3丁目南)



- 少子高齢化や人口減少などで先細る地域を活性化させるためにはぜひ必要だ
- 行政のサービス低下(人の削減・財源の縮減等)が顕著になっていく中、しっかり協働する自治組織を作りサービスの低下を回避する必要がある
- 問題や課題もあると思うが新しい組織(自治協議会は自治部会、防災防犯部会、福祉部会の3部会で組織)のもと活動をして行くべき
- 街育プロジェクト実行委員会(8団体の協働事業)などの協働事業を充実させ町を活性化する
- 屋上屋を重ねる(自治連合会の上に自治協議会を組織する)だけだ、現行のままで良い
- 行政の協働者として地域が担うのはおかしい、今のままで改善すべき
- よくわからない
- その他

第21回

福祉大会開催!

実行委員長 井上正明

第21回学園南地区福祉大会が、9月29日(土)の午後、学園前ホールにて開催されました。

今年の会場はこれまでよりも広く、劇場型の固定座席でありましたが、お子さんやその親御さんなど多くの方の参加で盛会となりました。

対象を高齢者に限らず幅広く参加を呼び掛けたことは、来賓の仲川元庸市長の挨拶の中でも感嘆の言葉で触れられていました。よりはつらつと楽しい大会に

なったのではないのでしょうか。

若年性アルツハイマーの飛鳥亭みやびさんは、3つのお題を聴衆から頂き即興で一つのお囃にこしらえ面白おかしく語りました。また、お役所仕事で題材の落語「ぜんざい公社」を取り上げ、その語り口も達者な

六斎亭空念仏さんほとも中学生とは感じさせず、聴衆を大いに魅了しました。

ソプラノ歌手・岡田由美子さんと子どもたちによる歌声交流では、マイクを向けられた会場の参加者も臆することなく懐かしい歌を歌いあげていらっしやいました。皆さんのおかげで、楽しいひと時を過ごすことができました。



六斎亭空念仏さん



飛鳥亭みやびさん



元気に歌う子どもたち



仲川市長の挨拶



地域活動だより (その2)



子ども会

子ども会では、歓迎会をはじめ七夕飾り、ピザ作り、クリスマス会、お別れ遠足など、季節に応じた企画を行っています。他学年との交流を深める場となっており、地域の皆様にご協力いただきながら、楽しく活動しています。(一丁目・大竹昭子)



子育て支援部会 ぷちっこパーク

学園前の未就園児を対象とした、ママたちが作るママと子どものためのサークルです。親子でミュージックケアを楽しんだり節分や七夕など季節の製作、秋には消防署見学やハロウィン、クリスマス会など盛りだくさん! 24時間休みのない子育てだからこそ、子育ての楽しさ大変さを一緒に分かち合いませんか?(二丁目・若林詠理香)



学園前ウォーキングクラブ(蛙会)

蛙会が発足して早や25年になろうとしています。ひとえにお世話して下さる皆様のおかげです。行き先は近畿二府四県ですが地元奈良の旅が一番多いようです。日頃の出来事、家族の事、その他について話し合いながら歩くのも楽しいもの。これからも年相応に無理のないウォーキングを続けます。(一丁目・永田寛)



学園南 ICT 部会

伏見先生のご指導で、文書の作成、表計算の基礎を中心に、年賀状、カレンダー、家計簿などの作成を、時には、インターネットを検索しながら学んでおります。地域のサポーターの方にも気軽に質問できる明るい雰囲気での会です。一緒に楽しく学びませんか? ご参加をお待ちしております。(二丁目・安松淳子)

# 「学園前アートフェスタ」の明日

大和文華館館長 浅野秀剛



学園前では、2015年から、「学園前アートフェスタ」(最初は「学園前アートウィーク」といったが翌年から改称)というアートプロジェクトを開催しています。大和文華館も会場を提供していますが、実際の活動は、学園南地区自治連合会や帝塚山学園の皆さんが担っています。2018年11月は、学園南だけではなく、学園北にまでエリアを広げ、それとともに学園前にある会社やお店などに協賛をお願いしたのを知って、正直なところ、すごいなあと思いました。今、全国的にアートプロジェクトが盛んで、それで地域を活性化し、あわよくば地域以外の人(観光客?)を呼び込もうと、頑張っているところも少なくありません。成功しているところもありますが、多くは、継続が危ういというのが現状です。

アートプロジェクトの課題を整理すると、何をやるか、誰が担うか、誰が費用を負担するか、という3つに集約できます。何をやるか、ということについては、現代美術が多いのですが、出品作家、作品を誰が選ぶか、担う人がそれを支持できるかという問題があります。誰が担うか、ということについては、「学園前アートフェスタ」の場合、学園前の住人ということになりますが、十分な人数が集まるかという心配がつきまといまいます。そして、誰が費用を負担するかということが最大の難関ですが、全国のアートプロジェクトの多くが自治体や基金などの公的資金に頼っているのが現状です。

私は、アートプロジェクトは、お祭りのようなものだと思います。何をどうやるかを住民が決め、労力も費用も負担する、というのが原則です。つまり、やりたい人々がいて、その人々が損得抜きで実施し、楽しむことができれば継続すると思っています。もちろん、私にとっても他人事ではありません。



編集委員  
(順不同・敬称略)

鳥居正明(一丁目)、森田仁司(二丁目)、大谷明子(二丁目)、川崎豊子(二丁目)、温井一三(二丁目)、  
広嶋嘉昭(三丁目)、石丸恵三(三丁目)、膳隆史(三丁目)、森本徹也(三丁目)